

# ハッピー\*トリマー®

2008  
July

vol. 32

大事だから、知っておきたい

## ブリーディングの 基礎講座

<巻頭フォト>

サマー・カット・コレクション

ペット・カット・セレクション  
シー・ズーの  
ひよこカット



シー・ズーの  
顔周りアレンジ集

胴長、  
太めも  
プチ変身!

## 体型カバー& チェンジカット





胴長、太めもプチ変身!

# 体型カバー & チェンジカット

サロンを訪れる犬のなかには、短足だったり首が短かったりと、いろんな子がいますよね。トリマーさんには、「どんな犬でもかわいくきれいに仕上げてあげたい」という思いがあるのではないのでしょうか。

そこで今回は、そんな“ちょっと困った”体型の犬でもプチ変身できる、カバーテクニックをご紹介します!

講師：深町政彦 (アートグルーミングスクール学長)





# ひと目でわかる カバー法 index

部位別

アンダーショット&  
オーバーショット

→ ムスタッシュで  
口元を隠す  
**p71**

首が短い

→ トップラインを低く、  
サイドネックを短く、  
クラウンを高くする  
**p65**

太っている

→ 胴体をできるだけ  
細くする  
**p70**

胸が平ら

→ 肩甲骨の付きを  
45度に見せる  
**p67**

尾付きが低い

→ テイルの付け根を  
30度に見せる  
**p66**

握りの悪い足

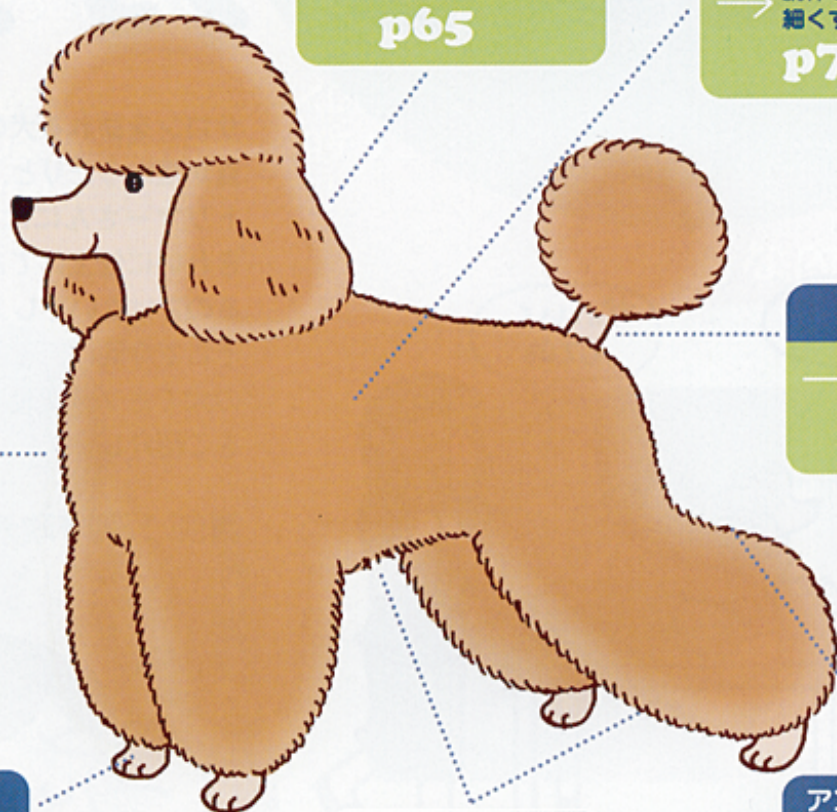
→ フットラインを  
低く作る  
**p66**

胴長・短足  
(胴短・足長)

→ タック・アップの  
位置を調整  
**p68**

アンギュレーション  
がない

→ 飛節の毛を多めに  
残す  
**p67**



## 体型カバーをする前に大事なこと



深町先生からひと言

まずは、何よりもその犬種のスタンダードを理解しておくことです。胸が平ら、肢が短いなどの犬をかわいくきれいに見せるためには、スタンダードに沿った体型に見えるようにカットしていくとよいでしょう。最初にその犬の骨格をよく見て、どの部分がスタンダードとは異なっているのかを見極めて、バランスを整えるようにカットします。それが上達へのいちばんの近道ですね。

とくにプードルの場合は毛量があるので、骨格をカバーするカットをする上では、スタン

ダードに対する理解がないと難しいでしょう。

最近のペットには、スタンダードとはかけ離れた骨格の犬が増えてきています。お店に来る犬は、たいていがそのような犬だと言ってもいいくらいです。そういった犬を骨格通りにカットしてしまうと、おかしい体型に見えてしまいます。

ペット・カットなら、かわいらしく作ればそれでよいかもしれませんが、より体型をきれいに見せるようにカットするほうが、仕上がりに差がつくでしょう。



# 首が短い

before



▶▶▶ トップラインを低く、サイドネックを短く、クラウンを高くする



## point

この部分の毛を取りすぎると、首がさらに短く見えてしまうので注意！

3 クラウンの頂点～首の中間までは、ハサミを縦にしてカットすると、毛の取りすぎを防げます。

## point

クラウンを高めに行くと、首が長く見えてgood！



2 耳の後ろの付け根の上が頂点になるように、クラウンを整えます。



1 背線をカットします。皮膚が少し透けて見えるくらいに短くしましょう。



5 サイドネックの毛は短めにカットしましょう。

4 首の中間～腰までは、犬のボディに対してハサミを横にしてカットし、①につなげていきます。



## point

サイドネックの毛が多い場合は、マズルを持って後ろへくっくと押すと、首の後ろに筋が入ります。短くする部分は、この筋を目安にしましょう。



6 アンダーラインをカットします。

## point

トップラインとアンダーラインのあいだを狭くすると、首が長く見えて○。ただし、アンダーラインをあまり上げすぎると逆効果なので、全体的なバランスを見て調整しましょう。

finish



## 失敗例

### 原因

クラウンの頂点～首の中間の毛を取りすぎると首がますます短く見える



NG



# 尾付きが低い

before



▶▶▶ テイルの付け根を30度に見せる



## point

座骨部分の毛を取りすぎるのはNG！ テイルをテーブルに対して90度上げて、こまめに側面してチェックしながらカットしましょう。

**2** テイルの付け根のサイドは、ハサミをテーブルに対して30度の角度で当てます。側面したとき、寛骨の付きがテーブルに対して30度に見えるように作りましょう。



**1** テイルの下側の付け根をV字型に逆剃りします。上側の付け根には、逆V字型の刈り込みを入れます。



## point

A～Bのラインは、側面したときテーブルに対して垂直でなく、やや内側に入るラインになるようにカットしましょう。

**4** ②でカットした寛骨のラインと坐骨端の交点A～膝より少し上の点Bまでをカットします。Bからは、アンギュレーションに沿って整えます。



**3** トップラインは、側面したときテイルの付け根～腰部に軽く角度が付くようにカット。また、①で入れた逆V字型の刈り込みにハサミを入れて、V字がはっきり見えるようにします。



finish

## ミニテクニック①

握りの悪い足を目立たなくするには？



side



front



フットラインを低く作って、足先がぎりぎり見えるくらいにします。テーブルに対して平行に作ると、足を着いたときに毛が上がりません。

失敗例



原因 テイルの付け根付近の毛を落としすぎる→余計に尾付きが低く見える



# 胸が平ら

▶▶▶ 肩甲骨の付きを45度に見せる

before



## point

②と③のラインが、Aを頂点にして90度になるように作りましょう。

3 上腕骨は、ハサミをテーブルに対して45度の角度で当ててカットします。

2 ①のラインをハサミで整え、サイドネックをカットします。サイドネックは、ハサミをテーブルに対して45度の角度で当てます。



## point

クリッピング・ラインをテーブルに対して45度に入れることで、肩甲骨が正しい角度であるように見えます。

1 ネック・ラインをV字型に作ります。クリッパーを耳の後ろ側の付け根よりやや後ろから入れ、胸のふくらみの最頂点まで真っ直ぐに入れます。



失敗例

NG



原因 ②と③のラインの角を取りすぎる→胸が平らに見える

## finish

4 ②と③のラインの角を取るように、丸みを付けてカットします。前肢の前側は、肢の付け根からテーブルへ向けて真っ直ぐにカットしましょう。



# アンギュレーションがない

▶▶▶ 飛節の毛を多めに残す

before



3 アンギュレーションの角を取るように、丸みを付けてカットします。

## point

この角を取ると、アンギュレーションがきれいに見えます。

## point

飛節の毛を多めに残すことが大事！

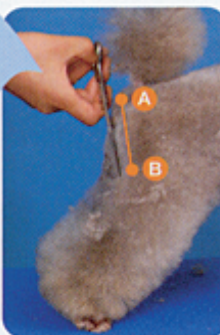
2 ①から続けて、飛節までを角度を付けてカット。ハサミは横にして当てます。



## point

アンギュレーションのない犬の場合、Bの位置を高めに設定するのがコツ。

1 テイルの付け根のサイドをカットします（p66「尾付きが低い」の②を参照）。次に、坐骨端A～膝より少し上Bをカットします（p66「尾付きが低い」の④を参照）。



失敗例

NG



原因 飛節の毛を取りすぎる＆前側をカーブを付けずにカット→肢が棒状に見えてしまう

## finish

4 後肢の前側は、後ろ側のアンギュレーションよりも少し緩やかなカーブを描くようにカットします。





# 胴長・短足

before



## タック・アップの位置を調整



**3** 胸は、肩甲骨と上腕骨の角度に気付けながらカットしましょう (p67「胸が平ら」を参照)。



**2** テイルの付け根の周りと後肢をカットします (p66「尾付きが低い」の②と④を参照)。



**point**

切りすぎると胴がより長く見えてしまうので注意しましょう。

**1** ハサミをテーブルに対して平行に当てて、背線のカットします。



**point**

側望したとき、前肢が少し後ろに付いているように見せると胴が短く見えます。



**6** 前肢の前側は、かなり毛を落としても○。⑤の前肢の真ん中のラインとのバランスを見ながら、前肢の前側のラインをやや後ろ寄りに設定しましょう。



**5** 側望して、前肢の真ん中のラインを、横幅の半分よりも少し後ろに想定します。そのラインを目安に、胸から続けて丸みを付けてカットしていきます。



**point**

この角を取らないと、胴が短く見えません。

**4** ③でカットした角を取るように、丸みを付けて整えます。

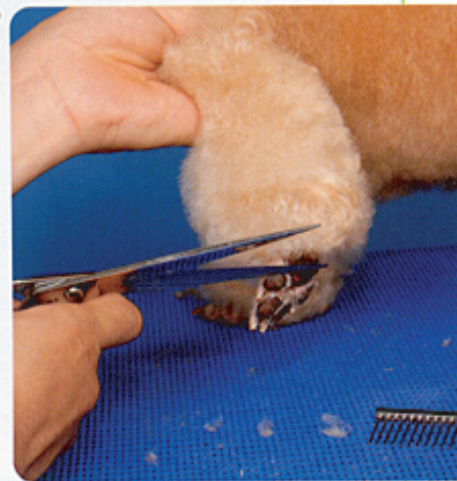
**point**



前肢と後肢のあいだを短く見せることが大事！ よって、前肢の後ろ側と後肢の前側の毛はあまり切らず、軽く整えるくらいにしましょう。その犬の全体的なバランスを見て、本来の骨格よりも胴が短く見えるようなカット法を心がけます。



**7** 肢が短い犬の場合、フットラインを低く作ると、肢を長く見せることができます。



**8** サイドネックは、首が長く見えるようにカット (p65「首が短い」を参照)。



# point

胴長・短足の犬は、タック・アップを大きく広く作ることが重要！



**9** ウエストの位置を決めます。胴の長さの半分よりやや後ろの位置に設定し、刃先を使ってウエストラインを荒刈りします。そこから後肢に向けてほどよく角度を付けてカットし、くびれを作っていきます。

**10** タック・アップを作ります。まず、本来のタック・アップの位置をカット。そこからアンダーラインにつなげていくときに、ウエストを作った位置まで真っ直ぐにタック・アップを伸ばすようにカットします。

**12** 後肢は、アンギュレーションの角を取るよう  
にカット (p67「アンギュレーションがない」を参照)。



**11** 前肢の片方を持ち上げて、前肢のあいだの毛をカットし、アンダーラインにつなげます。

# finish



ZOOM



# ミニテクニック②

## 胴短・足長の犬のタック・アップ



ZOOM

後肢の膝の延長線上に持っていき、小さく作ります。背線は短くカットしましょう。また、ウエストラインは胴長・短足の場合と同じです。



# 太っている

before



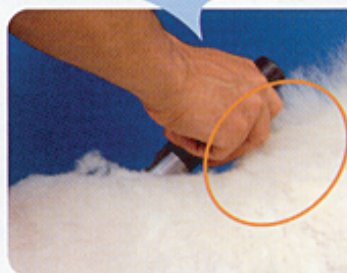
## ▶▶ 胴体をできるだけ細くする



2 背線は、首の後ろの凹みが目立たなくなるようにカット。

### point

太っている犬は首の後ろが凹んでいる場合が多いので、この部分はクリッパーを十分に浮かせて荒削りしましょう。



1 0.1ミリの刃を付けたクリッパーで、ボディ全体を荒削りしていきます。皮膚に直接当てずに、表面の毛をなでるようにして“切る”イメージで刈りましょう。全体的に短く仕上げたいときは、クリッパーを全体的に荒く入れて、後でハサミで仕上げるのがお勧めです。



4 太っていても後肢はそれほど太くない場合が多いので、通常通りアンギュレーションに沿ってカット (p67「アンギュレーションがない」を参照)。



3 テイルの付け根のサイドをカットします (p66「尾付きが低い」の②を参照)。

### point

前胸の幅が広くて後肢が細い犬が多いので、前胸はできるだけ細く、後肢の毛はあまり取らないようにします。クリッパーは、ボディでいちばん太い部分である胸の幅に合わせて入れていきましょう。



6 アンダーラインは、お腹の肉が垂れている場合が多いので、直接ハサミを入れると皮膚を傷つけてしまう恐れがあります。0.1ミリ刃のクリッパーで荒削りしてから、ハサミで整える程度にしましょう。



### point

必ずもう一方の手で皮膚がどこまであるかを確認しながらクリッピングしましょう。クリッパーは、いちばん肉が厚いところに合わせて入れます。



5 ボディのサイドを、クリッピングした部分の角を取るようにカットしていきます。前胸の幅に合わせてつつ、できるだけ細くなるように作ります。





**8** ①でクリッピングしたところの角を取るように、前胸とサイドネックを整えます。胸はできるだけ短くカットしましょう。

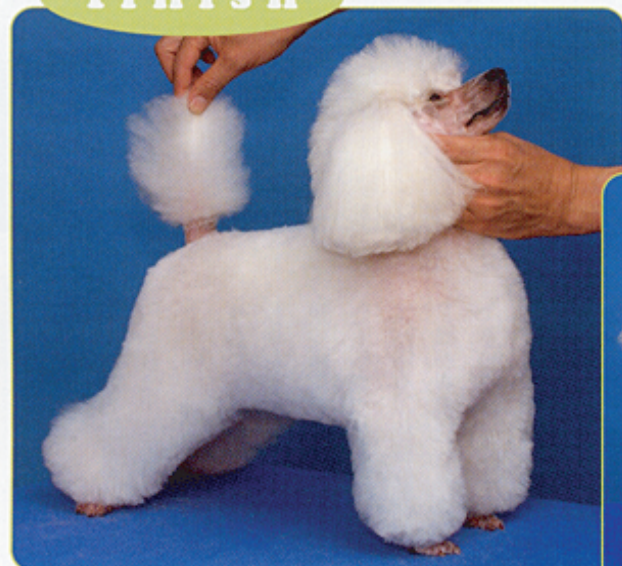


太っている犬は、立つと前肢が外に広がってしまうので、正しい位置に直してからカットしましょう。



**7** 前肢は、肩幅を目安に下へ向けて真っ直ぐにカット。前側・後ろ側・内側の角を取るように整えます。

## finish



side

**9** クラウンは高く作りましょう (p65「首が短い」の②、③、④を参照)。

## front



## ミニテクニック③

アンダーショット or オーバーショットをカバーするには？

▶▶ ムスタッシュで口元をカモフラージュ

### ムスタッシュー 1



口角の手前までクリッパーを入れ、口周りをぐるりと刈ります。クリッピング・ラインをハサミで整えながら、丸く作っていきます。

### ムスタッシュー 2



涙焼けが気になる犬に

両目のあいだ～鼻梁の上をクリッピング(涙焼けで汚れた毛も一緒に取ります)。鼻が丸の頂点になるので、ムスタッシュ①よりも顎下の毛が残ります。